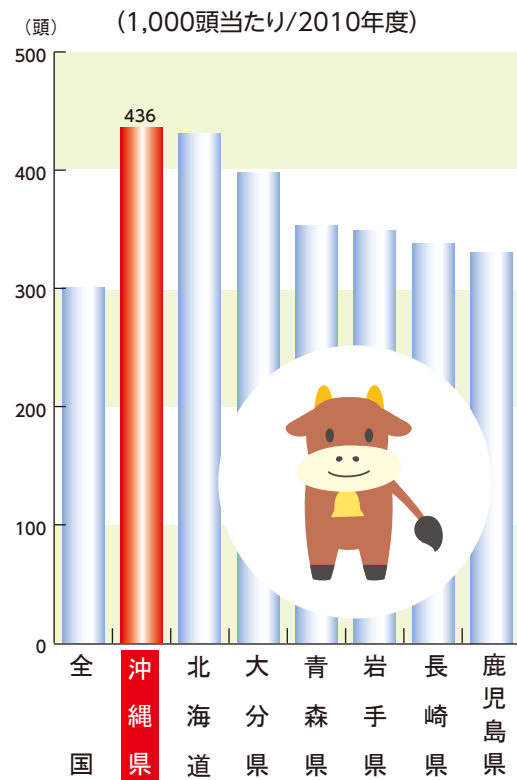


【和牛子牛の出生頭数】



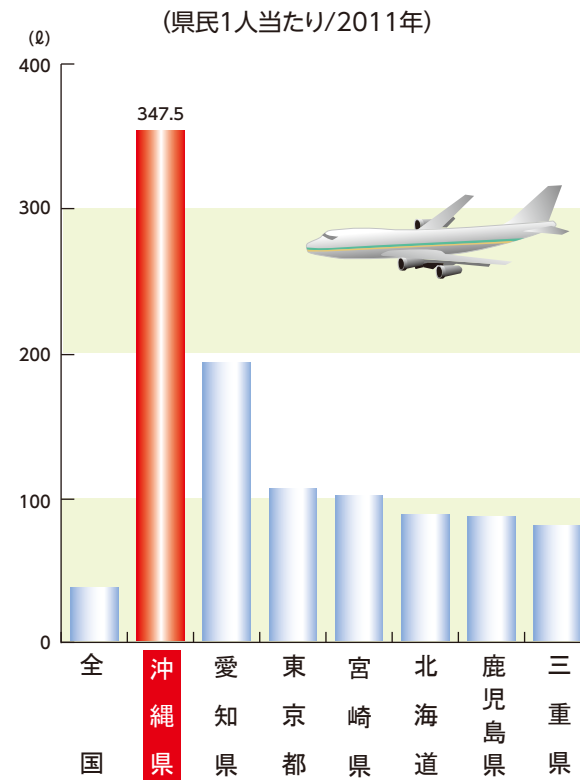
436頭/1,000頭

鹿児島黒牛や米沢牛が実は沖縄生まれかも知れないと言ったら、驚かれるだろうか？

独立行政法人家畜改良センター「牛の個体識別情報検索サービス」によると、2010年度における沖縄県の和牛1,000頭あたりの子牛出生率は436頭で、全国第1位となっている。これに北海道、大分と続く。沖縄で生まれた子牛は、生後平均10カ月で日本本土に渡り、1年ほど肥育され、ブランド牛として売り出される。沖縄県畜産振興基金公社が発表した2010年度の子牛取引総数実績を見ると、移出先の上位は鹿児島で6,623頭、続いて熊本、山形の順となっている。気候が温暖で、ほぼ1年通して牧草供給が可能な点など、子牛生育に沖縄のメリットが活かせることが出生率にも反映しているようだ。そして今日も、沖縄のどこかで、明日のブランド和牛が誕生しているのだ。

(海邦総研経営企画部／玉城有一朗)

【ジェット燃料消費量】



347.5リットル

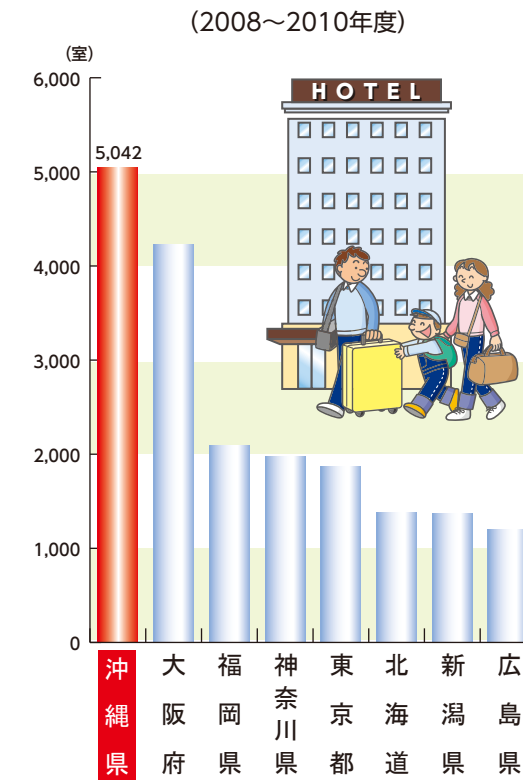
島しょ県沖縄。多くの人やモノが飛行機を利用して沖縄と本土を行き来している。また国際物流ハブの利用やLCCの就航予定もあり、今後ますます沖縄に飛来する飛行機の数は増えそうだ。その飛行機を飛ばすために必要なのが、ジェット燃料だ。

石油連盟「都道府県別石油製品販売」によると、県民1人あたりに換算したジェット燃料消費量は、2011年では347.5リットルになる。これは全国1位の消費量で、2位の愛知県の約2倍もの水準となっている。本土との間を行き来する物流、観光客のほとんどが飛行機を利用することが背景にあるといえそうだ。

人とモノの流れは、アジアにも拡大してきている。沖縄が、アジアと日本を結ぶ物流と人の流れのハブになれば、さらに消費量は拡大する。そんな日がもう間近に迫っている気がする。

(海邦総研経営企画部／中山禎)

【ホテル客室増加数】



5,042室

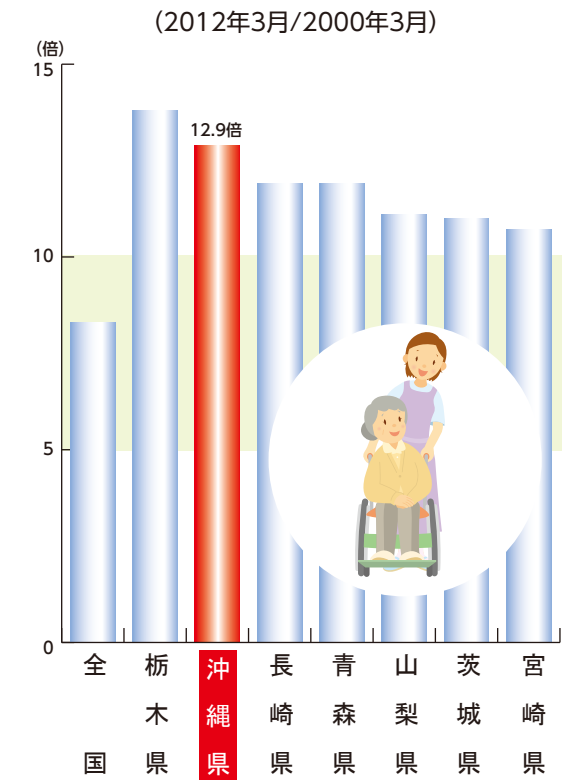
今年は平年より11日も早く、4月に梅雨入りとなった沖縄、ゴールデンウィーク期間中のお出かけ予定も、天気予報がよいという方も多かったのではないだろうか。沖縄では、梅雨明けと観光シーズン本番を迎え、多くの観光客が訪れる。リゾートホテルなどの客室稼働率も、これから8月にかけてピークを迎える。

厚生労働省「衛生行政報告例」によると、2008～10年度の2年間でホテルの客室増加数が最も多かったのは沖縄県で5,042室。次いで大阪府の4,232室となっている。また、沖縄県の2008～10年度の客室増加率は17.8%で、増加数、増加率ともに全国一となっている。

復帰40周年を迎え、国内有数の観光地としての地位を確立した沖縄県、観光客1千万人を迎えるための準備は、急速に進んでいるようだ。今後も、沖縄特有の観光資源である自然環境を守りながら、観光インフラ整備を進めてほしいものだ。

(海邦総研経営企画部／上江洲龍)

【社会福祉士登録者数の倍率】



12.9倍

福祉サービスを受けるにあたり、社会福祉士に相談された方も多いのではないだろうか。

公益財団法人社会福祉振興・試験センターがまとめた都道府県別社会福祉士登録者数によると、2012年3月末現在の県内の社会福祉士は1,538人。2000年3月末と比較すると1,419人増の12.9倍となり、都道府県別では全国2位の倍率となっている。

高齢人口の多い沖縄では福祉に関する求人も増えてきており、社会福祉士の登録者数も増加しているとみられる。しかし、県内の福祉・介護人材は、県の調査によれば、その他の職種と比較して、給与水準が10%程度も低い。待遇面での課題も多く、離職率も他職種と比較して高いのが実情だ。

地域福祉の担い手としての社会福祉士の役割は今後、さらに重要になってくるだろう。待遇改善や地位向上を期待したい。

(海邦総研経営企画部／島田尚徳)